

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	司法研究科
大項目	2 入学者選抜
中項目	
小項目	2.0.1 入学者選抜基準等の規定・公開
要素	適切な学生受入方針、選抜基準及び選抜手続が明確に規定され、適切に公開されていること。
小項目	2.0.2 入学者選抜の実施
要素	入学者選抜が、入学者選抜の基準及び手続に従って適切に実施されていること。
小項目	2.0.3 既修者選抜基準等の規定・公開
要素	適切な法学既修者の選抜基準・選抜手続及び既修単位の認定基準・認定手続が明確に規定され、適切に公開されていること。
小項目	2.0.4 既修者選抜の実施
要素	法学既修者の選抜及び既修単位の認定が、所定の選抜・認定の基準及び手続に従って適切に実施されていること。
小項目	2.0.5 入学者の多様性の確保
要素	入学者全体に対する「法学部以外の学部出身者」又は「実務等の経験のある者」の割合が3割以上であること、これに至らない場合は3割以上となることを目標として適切な努力をしていること。

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 面接試験の結果を重視するため、特別入試で総合点が優れていても不合格とする制度に改める。	→特別入試における面接点の最低基準の決定	D	C	B	B	A
2. 既修者試験について、専門の各科目の合格最低点を決定する。	→科目別の合格最低点の決定。	C	B	B	A	A
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入試検討委員会を中心に検討した。特別入試の可否判定は総合点によって行うが、論文試験、面接試験、適性試験の評価が一定の基準を満たさない場合は不合格としている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 毎年、特別入試合否判定の際、面接試験についても基準点を確認し、その点数を上回っているかを確認したうえで合格を出している。昨今、特別入試の志願者が減少していることもあるが、一般的に言って、特別入試を志願する者は目的意識が高い者が多く、未だにこの基準に抵触して不合格となったものはいない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 個々人の特性を評価することを特徴とする特別入試の特性に鑑み、今後も面接において、受験生がこれまでに各々の分野で努力してきた実績や将来法曹になることに対する意欲について見極めるように努めたい。その面接結果を尊重するために、引き続き最低点の設定を行う。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入試検討委員会を中心に検討した。本学カリキュラムも考慮に入れた上で、一括単位認定するすべての科目について十分な学力を担保するため、科目ごとに合格最低点を定めている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		毎年数人は、総合得点が合格最低点を上回っているが、一科目だけ合格最低点を下回ったために不合格となったものが出ている。これにより、一科目でも基礎学力が不十分なまま、無理に既修者として入学することを防ぐことができている。今後は、最低点の基準の妥当性について継続的に検証する必要があると考えている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		今後も合格最低点は引き続き設定する。一度限りの試験の結果をもって判断することの妥当性については議論のあるところであるが、入学後に無理なく学習を進められるよう、科目ごとの基礎学力を的確に判断できるよう、基準の妥当性を検証したい。	☆
		その他	
			☆
備考			☆